

AL

ANAHEIM

LABORATORY LOG

アナハイム・ラボラトリー・ログ

【第2話: アクシズからの帰還②】

を確認した2機のガルバルディは、ついに本領を発揮した。2機のうちブルーを基調としたガルバルディは、脚部の外装が外され、露出した大型のスラスターが生み出した大推力を活かして、ジム・ク

ウエルの動きを圧倒。大きくジャンプしつつ、空中で急激な方向転換を重ねるその動きにジム・クウエルは反応することができず、ビーム・マシンガンの斉射によって行動不能に陥ってしまう。

一方、グリーン塗装が施されたガルバルディは、右手のビーム・ライフルを発射。ジム・クウエルはその攻撃こそ避けたものの、次の大盾を前面に向けて大推力で突進してくるシールド・アタックには反応することさえできなかった。大質量のシールドによる打撃は、コクピットに座ったエリ阿斯大尉の脳を大きく揺する。オートバランサーによって、なんとか転倒を免れたジム・クウエル。その時、揺れる視界の先に、エリ阿斯大尉は大型のビーム・サーベルが突き出されるのを視認したものの、その直後機体はサーベルに貫かれ、ジム・クウエルは爆散していった。

瞬く間に2機のジム・クウエルが倒された状況を目の当たりにし、優勢に見えたペイルライダーⅡのパイロットは、自分が追い詰められたことを実感していた。圧倒的不利な状況において戦意を喪失。ペイルライダーⅡはシェキナーの銃口を下げ、戦線から離脱するような動きを見せた。

攻撃の意思がないような姿勢のまま、ペイルライダーⅡが大きく後方にジャンプした瞬間、長距離から大口径のビーム砲がジオン系MSを襲う。

ペイルライダーⅡの動きは、仲間からの不意打ちを成功させる

ために、注意を引かせる動作だったのだ。

その攻撃にわずかに反応が遅れたグリーン機のガルバルディは、パイロットこそ死んでいるが機体は大破してしまう。その瞬間を見逃さず、ペイルライダーⅡはシェキナーを構え、ガトリングとビーム・ランチャーを同時に発射していた。すでに警戒態勢に入っていたドムタイプとガルバルディは、ギリギリのタイミングでペイルライダーの攻撃を躲した。続いて遠距離射撃の第2射が、2機を襲う。しかし、ベテランパイロットと思われるドムタイプとガルバルディのパイロットは、第2射を回避しつつ次の行動に移っていた。

ビーム砲の攻撃に巻き込まれないよう離脱行動に入ったペイルライダーⅡに追撃をかけた青いガルバルディは、ニードル・ミサイルを発射しながら追撃。シェキナーの破壊に成功する。一方、長距離ビーム砲の砲撃があった方向に向けて、ドムタイプはそのホバー機能を駆使して猛スピードで移動を開始する。

ガルバルディは、バランスを崩したペイルライダーⅡにシールドを投げつける。シェキナーを破壊されたペイルライダーⅡは腰部に装備していたビーム・ライフルで反撃の体制に入っていたが、その大質量が激突した瞬間にバランスを崩してしまう。間髪入れずにガルバルディはビーム・サーベルを繰り出してペイルライダーⅡの両腕を切断。戦闘不能の状態に陥らせる。

次弾射撃へのエネルギー充填に時間をとられているジム・スナイパーⅡのもとに、スラスターをフル出力にして近づくドムタイプ。そのスピードはまさに赤い彗星を想起せずにはいられなかった。ギリギリの距離まで近づかれながらも、3発目を発射するジム・スナ

2

この時期、連邦軍内において、シアアの生存についてはさまざまな憶測が飛び交っていた。「ア・バオア・クーの戦場で戦死した」という説、「生き残って地球圏に潜伏している」という説、そして「アステロイドベルトに逃げ延びた」という説。この赤いドムタイプの存在は、「アステロイドベルトに逃げ延びたシアアが地球圏に戻った」と未確認の情報を思わず信じてしまうような説得力があったと言えるだろう。

高まる緊張感の中、ついに、ジム・クウエルと赤いドムタイプたちは、交戦可能域に突入した。ライフルを構え、攻撃準備に入るジム・クウエル。しかし、近づいてくるジオン側の機体はそれに反応することなく進み続ける。

「最終警告である。進行を止めなければ攻撃を行うー」

光学信号に加え、周波チャネルをジオン共和国に合わせて呼びかけも行ったが、やはり止まる気配は感じられない。目前まで迫った余裕のある動きを見せるジオン系の機体に対し、ティターンズの若き兵は恐怖のあまりに発砲してしまう。

月面に瞬くマズルフラッシュを確認したジム・スナイパーⅡのパイロットは、戦闘の始まりを確認し、さらなる真剣を眼差しで射撃用モニターに目を凝らす。

攻撃を開始したジム・クウエルに対し、ジオン側の3機は、余裕を見せつけるかのように、自らは発砲をせずに攻撃を続け続ける。そんな状況の中、赤いドムタイプは、ジム・クウエルをガルバルディ2機に任じ、先を急ぐようにその場を離れようとしていた。

体勢を低くし、ドムタイプが一気に持ち前の推進力で加速をかけたようにしたその時、高速で移動するもう1機のモビルスーツが赤い機体へと攻撃を仕掛けた。それは、別働隊として動いていたペイルライダーⅡだった。ジャイアント・ガトリングとメガ・ビーム・ランチャーが一体化した複合型特殊武装〈シェキナー〉を駆使し、ガトリングによる弾幕とビーム・ランチャーを織り交ぜた変則的な攻撃は、直撃こそしないものの、赤いドムタイプの動きを鈍らせるには充分だった。

ジム・クウエル以上の機動性と、〈シェキナー〉の攻撃力によって、ペイルライダーⅡは、赤いドムタイプに肉薄する。苦戦という状況まで行かないが、赤いドムタイプが足止めをされている状況には充分だった。

激しい明滅でモニターはダウンしてしまう。確かな手応えと共にパイロットは思わず呟く。

「やったのか？」

そう思った瞬間、ジム・スナイパーⅡの頭部にはドムタイプのビーム・サーベルが突き立てられていた。

ドムタイプは、正面から襲い来るビーム砲に対して、ビーム・バズーカを発射し、その刹那に射線から外れてジム・スナイパーⅡを仕留めたのだった。

ドムタイプからガルバルディαに通信が入る。

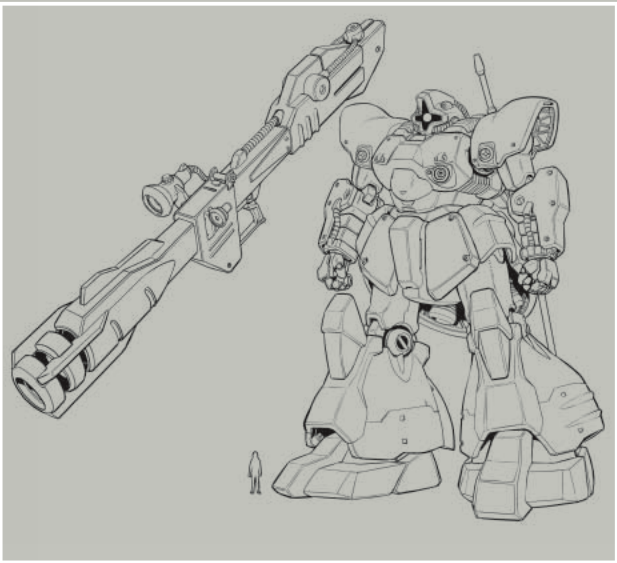
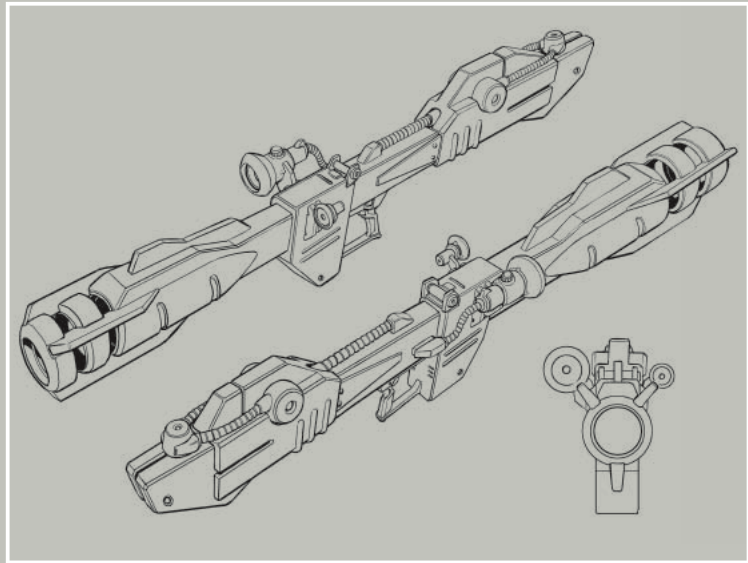
「リカルド、こっちも片付けた。これだけ暴れば、ティターンズはこっちにもっと部隊を送ってくるだろ。大佐の機体の色は目立つから、みんなこっちに釘付けさ。ところで、推進剤を使い果たしちゃってもう動けないから、こっちに迎えに来てくれないか？」

「了解！ ところでアンディ。改良されたドワスの性能はどうだ？」

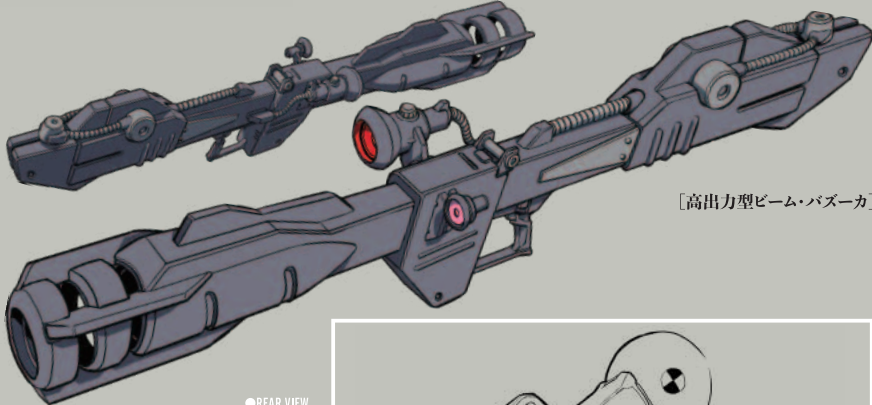
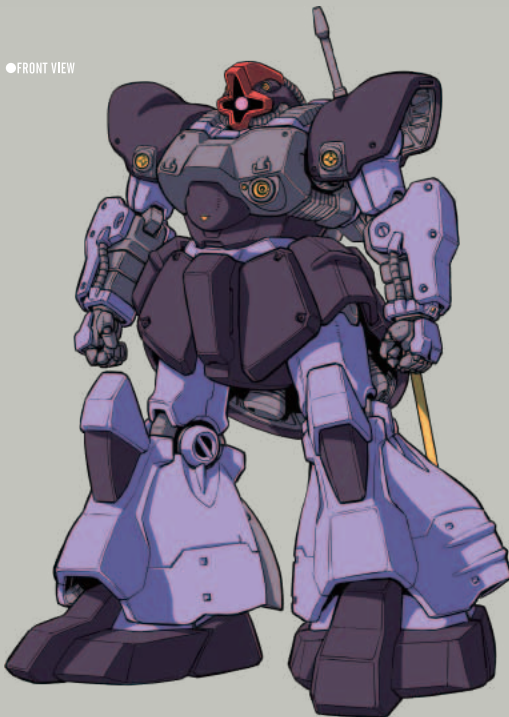
「ドムに比べれば、機動性は高いな。第三世代のルナ・チタニウム合金をアクシズから持っていたけど、この戦闘でのデータも有用だから送っておこう。」

同じ頃、グラナダから離れたA.E社のブライベートな宇宙港に、1機のランチが到着していた。降り立ったサングラスをかけた金髪の青年は、先日知り合った地球連邦軍の老将フレックス・フォーラからの紹介で遠いアクシズで作り出された、ある装甲材のサンプルが入ったアタッシュケースを片手に港へと降り立つ。この装甲材が、その後のMS開発を大きく発展させることになるのだった……。

Illustration / MORUGA

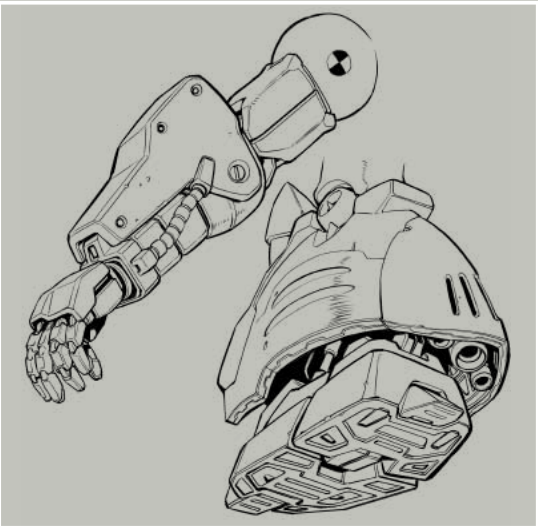
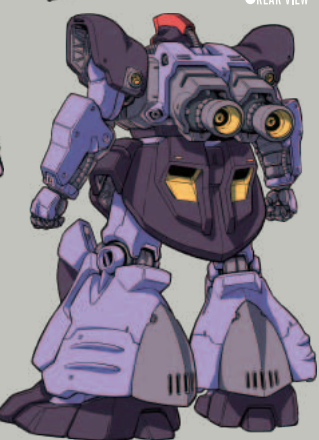


●FRONT VIEW

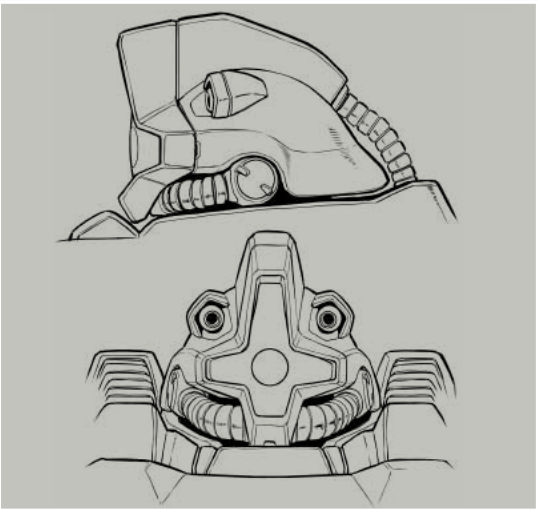
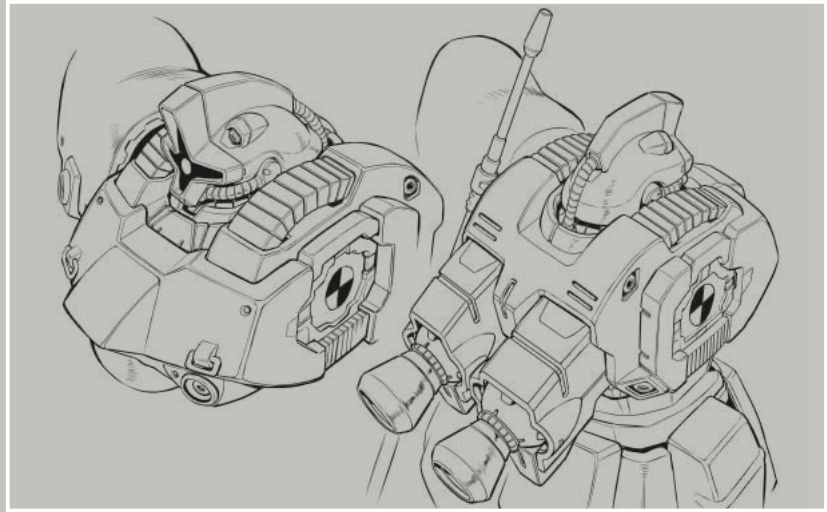


〔高出力型ビーム・バズーカ〕

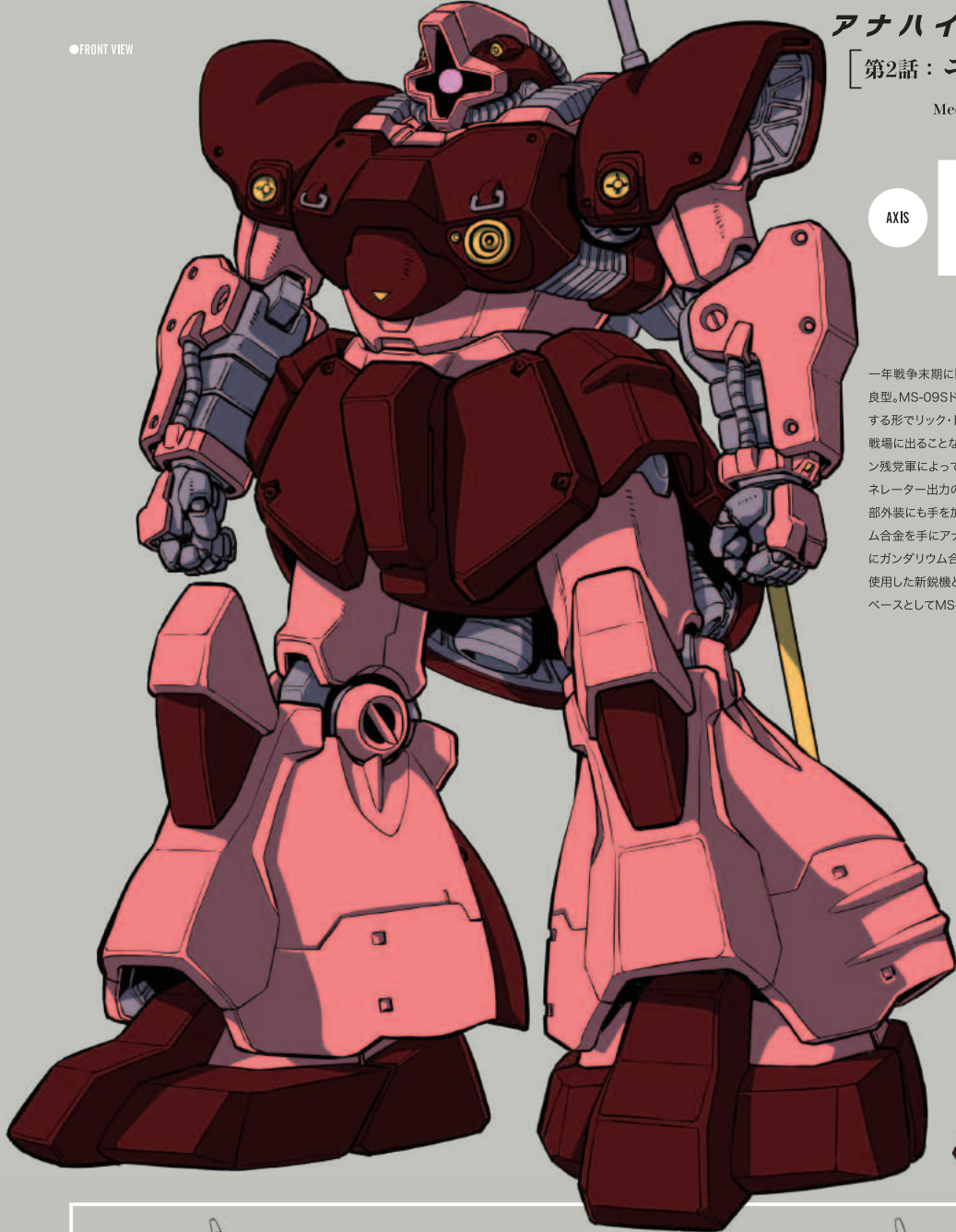
●REAR VIEW



〔DATA〕●頭頂高／18.6m●本体重量／42.6t●全備重量／61.2t●装甲材質／チタン・セラミック複合材（一部ガンダリウム合金）●ジェネレーター出力／1,360kw●スラスター総推力／65,000kg●センサー有効半径／5,400m●武装／高出力型ビーム・バズーカ、胸部拡散ビーム砲、ヒート・サーベル、頭部バルカン×2



●FRONT VIEW



AXIS

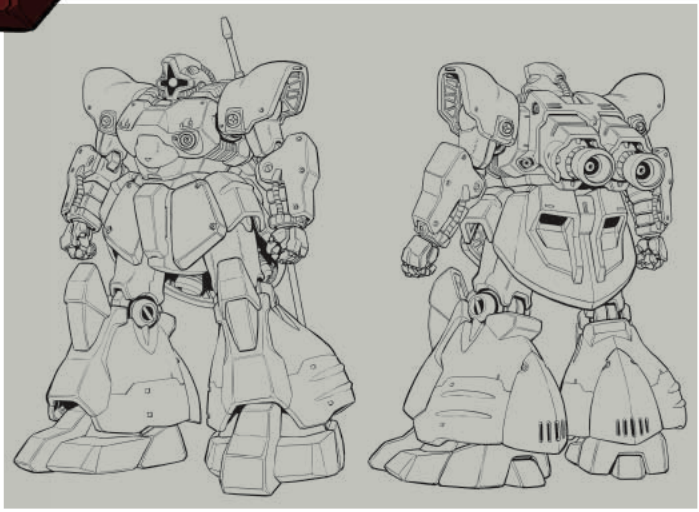
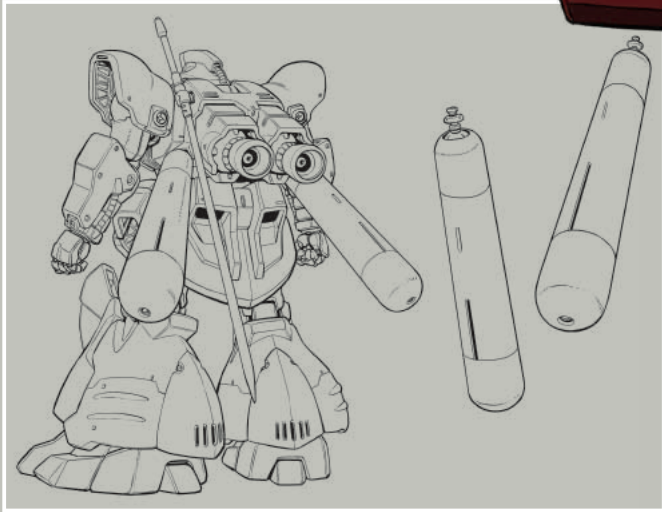
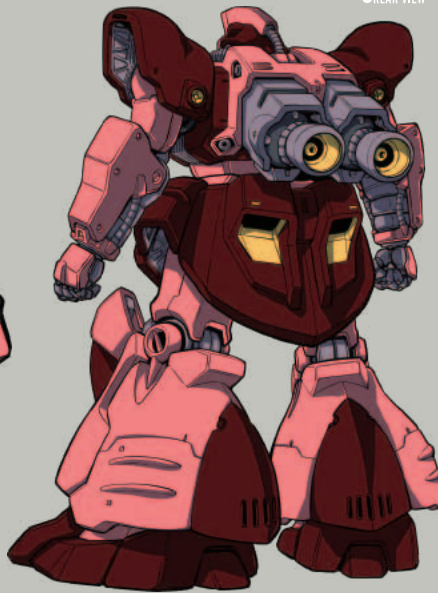
MS-09SS

DOWAS CUSTOM

〔ドワス改〕

一年戦争末期に開発されたMS-09Rリック・ドムの最終生産型であるMS-09Sドワスの改良型。MS-09Sドワスは、MS-09R-2 リック・ドムⅡ（ツヴァイ）を経て、高機動戦闘を目的とする形でリック・ドムの機能向上を図るべく開発されたが、生産数も少なく、そのほとんどは戦場に出ることなく終戦を迎えていた。一年戦争終結時にアステロイドベルトに逃れたジオン残党軍によって、小惑星アクシズに移送されたMS-09Sドワスは、さらなる機動性とジェネレーター出力の向上、ガンダリウム合金を使用した装甲の改良などが施されることで、一部外装にも手を加えられMS-09SS ドワス改へと進化していた。アクシズを離れ、ガンダリウム合金を手に入れたアナハイム・エレクトロニクス社に向かったシャア・アズナブルは、機体の一部にガンダリウム合金を使用したMS-09SSドワス改を移送。その結果、ガンダリウム合金を使用した新鋭機となるアガンダム（後のRMS-099（MSA-099） リック・ディアス）の設計のベースとしてMS-09SSドワス改が使用されることになった。

●REAR VIEW



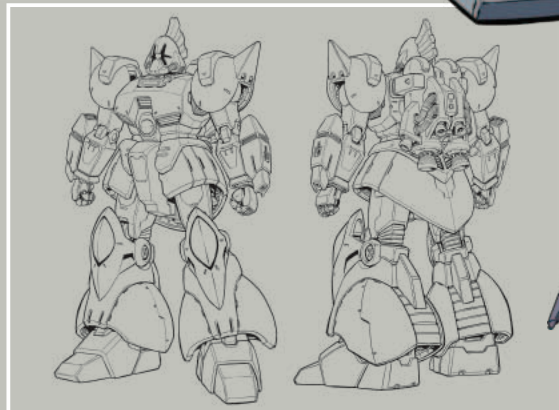
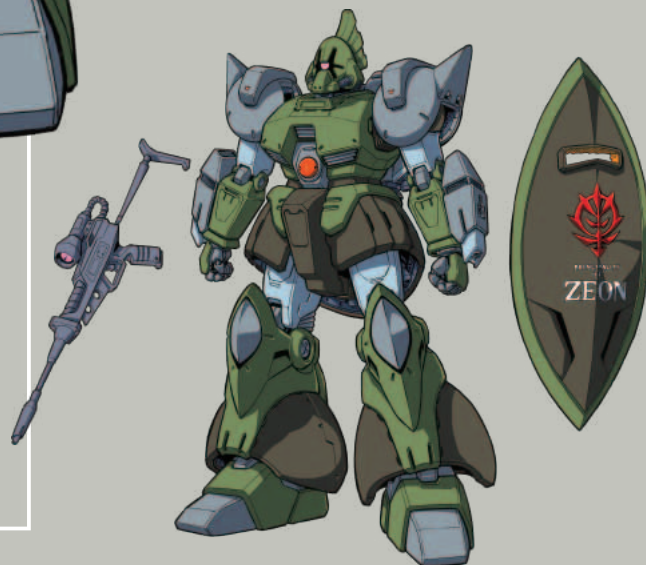
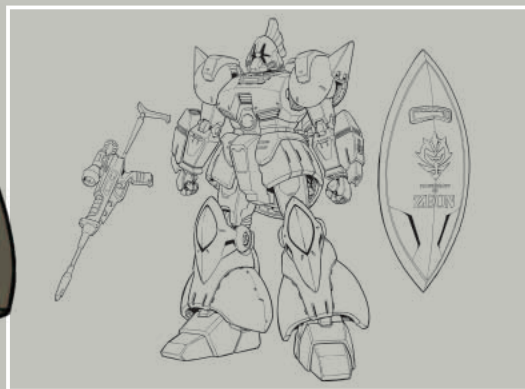
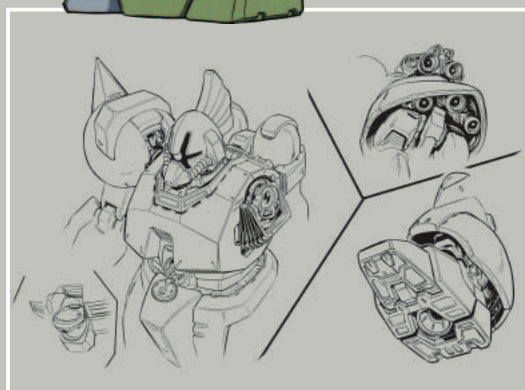
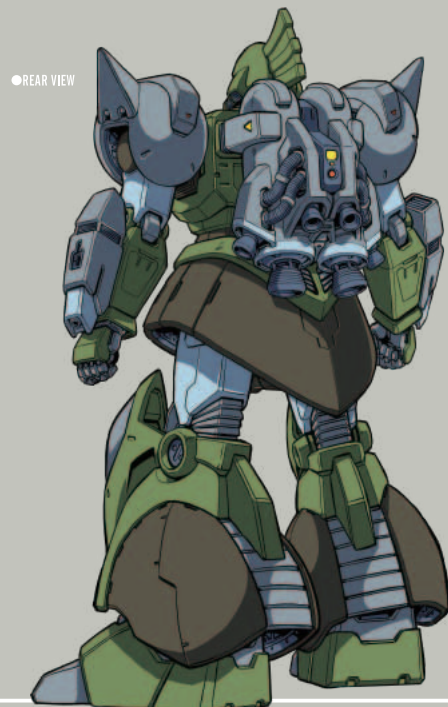
MS-17 GALBALDY α

[ガルバルディα]

●FRONT VIEW



●REAR VIEW



YMS-15ガンの格闘戦能力をゲルググに付与する方向で、ジオン公国が秘密裏に兵器開発をしていた「ベズン計画」の一環として開発された機体。本機は宇宙戦用のB型をベースにアクシズで現地改修された機体で、高機動型ゲルググのバックパックを装着している。これらのガルバルディから得られたデータは、後に親衛隊用のガスシリーズに生かされた。

[DATA] ●頭頂高／18.4m ●本体重量／41.7t ●全備重量／72.9t ●装甲材質／超硬スチール合金 ●武装／ビーム・ライフル、ビーム・サーベル、シールド

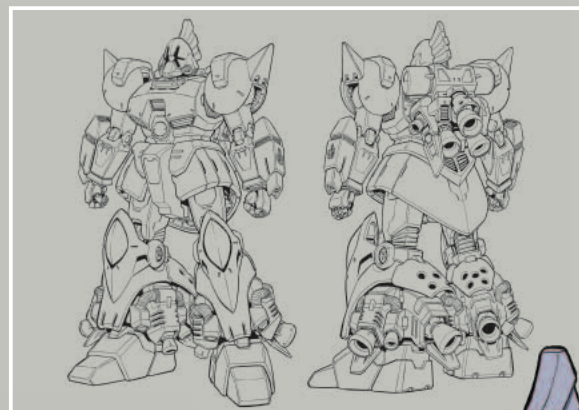
MS-17R GALBALDY α HIGH MOBILITY TYPE

[高機動型ガルバルディα]

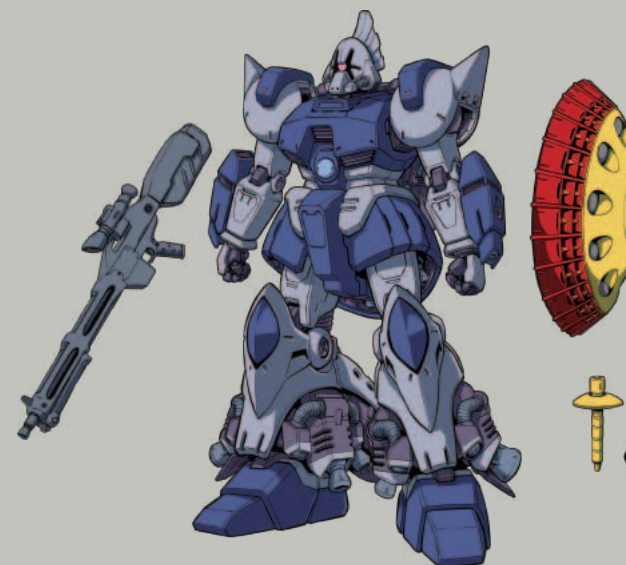
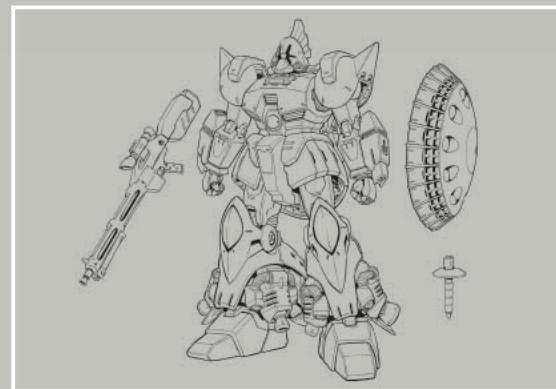
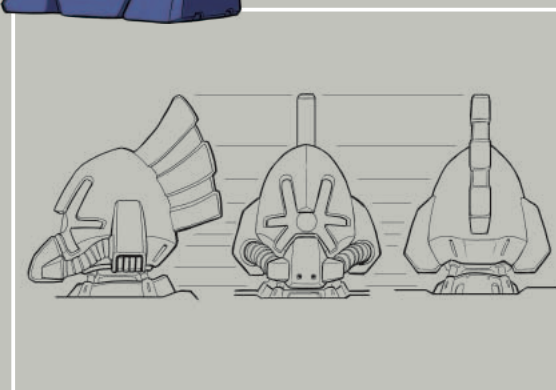
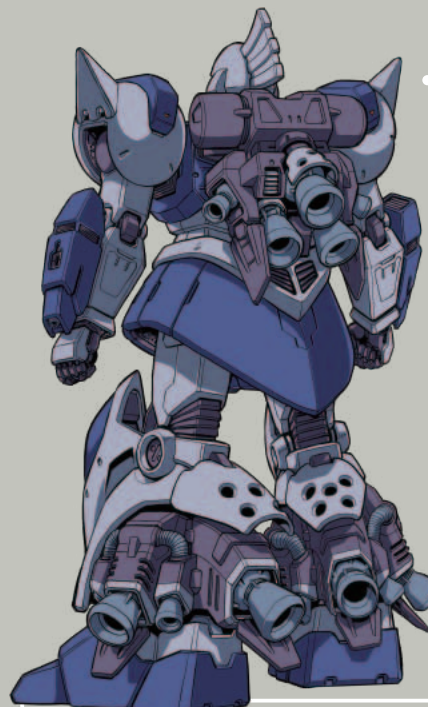
AXIS

MS-14ゲルググと次期主力量産機の座を争ったYMS-15ガン。高性能機ながら、ビーム・ライフルが装備できないという理由から開発競争に負けてしまったYMS-15ガンを、MS-14ゲルググの規格を共用する形で再設計したのがガルバルディαである。ロールアウト直前に一年戦争が終結し、一部の機体は小惑星アクシズに移送され、一部の機体は地球連邦軍に摂取されてしまう。アクシズに移送された機体は、空間戦闘に特化すべく脚部もMS-14BR高機動型ゲルググと同じ規格のものに変更することによって、機動性の向上が図られている。U.C.0084年のMS-09SSドワス改の移送にあたって、この高機動型が護衛用として一緒に地球圏に運ばれた。武装にはYMS-15ガン用のシールドとビーム・サーベルを装備し、機体のポテンシャルの高さを示した。

[DATA] ●頭頂高／18.4m ●本体重量／53.5t ●全備重量／81.1t ●装甲材質／超硬スチール合金 ●武装／ビーム・マシンガン、専用ビーム・サーベル、シールド(ニードル・ミサイル、ハイド・ポンプ内蔵)



●REAR VIEW



●FRONT VIEW

